令和７年度　第１回　岡崎市生涯学習推進委員会　会議録

１　開催日時

令和７年８月 18 日（月）　10 時 00 分～11 時 40 分

２　開催場所

図書館交流プラザ　会議室 301

３　委員出欠状況

⑴　出席委員

益川　浩一　委員長（岐阜大学副学長補佐
岐阜大学地域協学センター長・教授）

江良　友子　副委員長（愛知学泉短期大学准教授）

山田美代子　委員　（りぶらサポータークラブ副代表、市民協働推進委員）

葉山　栄子　委員（岡崎市社会教育委員、生涯学習公―ディネーター、
元名古屋学芸大学参与）

平岩　亮人　委員（特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた
統括管理責任者、市民協働コーディネーター）

矢田　綾子　委員（市民公募委員）

⑵　欠席委員

野澤　琳　　委員（市民公募委員）

４　事務局出席者

社会文化部

山田　能正（部長）

手嶋　俊明（専門監）

生涯学習課

岡田　武士（課長）、羽田　正輝（副課長）、尾﨑　孝幸（総務企画係長）、
岩田　弘志、中根　弘貴

中央図書館

谷端　健司（館長）、丸本　洋乃（副館長）、本多　正直（総務係長）、
小野　祥子（資料提供サービス係長）、上川畑　史江（情報サービス係長）

５　傍聴者

０名

6　委員長挨拶（省略）

7　社会文化部長挨拶（省略）

8　議題

⑴　生涯学習推進計画アクションプランの令和６年度の実績について

⑵　市民アンケートの調査結果について

⑶　岡崎市生涯学習推進計画の見直しについて

それぞれ事務局から説明した。

＜以下、各委員の意見等＞

⑴　生涯学習推進計画アクションプランの令和６年度の実績について

委　員：市民センター講座について、令和６年度末から制度の変更があったか。

事務局：１年を通して講座を継続していたが、制度を見直し、１～３回の短いスパンで講座を開催することとした。また、市民センター講座に加え、市民で団体を設立し、講師を招いて学習する自主講座という制度も活用していただいている。

委　員：図書館システムの供用管理と予算資料等の回送業務について、指標が市民 1 人当たりの貸出数 5.35 冊となっているが、設定に問題はないか。

事務局：これまで図書館の活動係数として引用したものを市民一人あたりという形で設定している。例えば利用登録者の平均にすると 13.2 冊という数字になる。わかりやすい表現になるよう検討する。

委　員：生涯学習を支援する人材の育成等について、開催講座数が 124 ということは、124 人以上の方が講師として活動していると考えてよいか。

事務局：講師のサポートで一緒にやられる方や団体で開催されることもあるので、実際にはもう少し多いものと考えている。

委　員：目標にそれほど一喜一憂する必要はないのかもしれないが、達しなかったところは原因を分析し、達成を目指し事業を進めてほしい。

⑵　市民アンケートの調査結果について

委　員：インターネットと郵送で回答を受け付けたということだが、それぞれの割合はどの程度だったのか。

事務局：インターネットで回答を受けたのが 437 件、紙で回答を受けたのが 651 件である。約４割の方がインターネットから回答している。

委　員：岡崎市は講座やイベントを開催しているが、市民に情報がいきわたっていないように思う。アンケートの結果ではインターネットやＳＮＳが主流となっていると思うが、広報にＳＮＳを活用している例はあるか。

事務局：ジャズなどはＳＮＳを利用して広報しているが、講座等については市政だよりやホームページがメインで、ＳＮＳを活用できていない。積極的に広報できるよう検討する。

委　員：若年層は Instagram 等のＳＮＳを見る頻度が高く、家で家事育児をしなければいけない子育て世代にも有益かと思う。足を運んで座学を受けるというのはハードルが高い。自宅学習が主であるという結果も出ているので、育児や家事をしながら動画がいつでもどこでも聞けるというような状況に取り組んでほしい。

委　員：年齢層について、前回と比較して 10 代の回答が著しく低いが、理由はあるか。

事務局：アンケートの対象年齢を 18 歳以上としているので、10 代で対象となるのは 18 歳、19 歳の市民だけであり、そもそも対象となる人数が少ない。前回は他の年代と同程度の数になるように増やしてアンケートの対象を選定したが、今回は純粋に人数で案分して対象を選定したため少なくなった。

委　員：図書館に期待することについて、ティーンズ世代へ魅力ある読書の入り口を案内する取組という項目があるが、回答者の層からすると年配者の声であると考えられる。ぜひ当事者の声も反映される方法を考えてほしい。

委　員：こども基本法ができて、子供の意見表明や参画がキーワードになっている。政策形成にも子供たちの意見を聞くことが重要になる。ぜひ当事者の声を大切にしてほしい。

事務局：普段から図書室を利用している方の 52％がティーンズに向けた取組について期待しており、若い世代に対するサービス、当事者の声を聴いてあげて欲しいという声の現れであると認識している。しっかり取り組んでいく。

委　員：活動の支障について、活動の時間が取れないということと、意欲がわかないという回答結果が前回と今回で逆転している。アフターコロナでいろいろな活動や講座が始まって、選択肢が増えている中で自分自身が忙しくなって活動に参加できなくなっている、フラスト

レーションがこの数字に表れているのではないか。若い世代だと興味の対象には時間やお金を惜しまない人が非常に増えている。文字通り時間が無いという人もいれば、関心のある講座に出会えていないという人も含まれているのではないか。また、情報がないという項目も数字が増えている。若い世代が参加したいと思える、関心があるものを見つけられる、その入り口を作るのが非常に大切である。ホームページにリンクを貼るなど、情報入手の手助けをすべきではないか。

事務局：講座の幅や種類だけでなく、情報発信方法も検討していく。

委　員：図書館に期待することについて、赤ちゃんから本に親しめる取組に強い期待が寄せられている。その取組と、他にかけ合わせる取組も必要ではないか。妊娠出産の直後は社会から孤立しがちであり、コミュニティーで交流を持ちたかったり、勉強学習したい意識があったりする人もいる。赤ちゃんに親しめる取組と、親御さんに提供する本を組み合わせる等検討いただけるとよいのではないか。

事務局：赤ちゃん向けだけでなく、保護者に向けた取組についても検討していく。

⑶　岡崎市生涯学習推進計画の見直しについて

委　員：計画に記載してあることを実行するのは誰か。市が全部やるのは難しいと思うので、協力者の想定等を記載するとよいのではないか。

事務局：今回の資料は第３章までしか記載していないが、現行の計画と同様、第５章で記載する予定である。

委　員：岩津で市民活動と生涯学習の拠点が一つの建物になる計画があるが、市民からすると市民活動と生涯学習の違いがわかりづらい。独立して存在させるのか、連携するのか考えていった方がよいのではないか。

事務局：第２章冒頭に載せたイメージにもあるが、生涯学習はボランティア等の市民活動も含んでおり、明確な線引きをして区別は難しいと考えている。担当課と調整していく。

委　員：図書館の役割見直しについて、子ども向けの本との出会いだけでなく、一般成人向けに本を資料として利用することを促してもよいのではないか。インターネットの利用が増えているのはわかるが、インターネットで収集した情報の確度を確認する資料としても利用できるのではないか。

事務局：例えば予約利用など図書館サービスの利用に関してもスマートフォ

ンからのアクセスが多い。デジタル媒体の利用可否で格差が起きないよう、情報提供の仕組みを検討する。

委　員：図書館を利用したことがない市民が４割もいることにショックを受けている。とても素晴らしい図書館であるため、足を運んでもらう仕組みやアピール方法を考えてほしい。

事務局：情報提供できる仕組みを検討していく。

委　員：計画の改定にあたっては非常にボリュームがあり、今回の会議だけでは意見をすべて出していただくことは難しいのではないか。

事務局：改定までに順次情報を提供させていただくので、お気づきの点があればぜひご意見を頂きたい。

９　連絡事項

計画の改定について、事務局から本委員会の内容をフィードバックのうえ改定案を作成するので、お気づきの点があれば会議に限らず随時御意見をいただきたい旨の申し出をし、各委員に御了承いただいた。

会議終了